

## 株式運用における ESG 投資の高度化

### ～外国株式ESGファンドのインハウス運用・国内上場株式のインパクト投資の開始～

第一生命保険株式会社(代表取締役社長:稲垣 精二、以下「当社」)は、日本全国の約 1,000 万名の保険契約者の保険料を原資とした約 35 兆円の資産を運用する機関投資家(ユニバーサル・オーナー)として、ESG 投資を積極的に推進しています。今般、ESG 投資の更なる高度化に向けた取組みの一環として、①外国株式 ESG ファンドのインハウス運用を開始するとともに、②従来の未上場株式インパクト投資に加え、新たに国内上場株式においてインパクト投資を開始することを決定しましたのでお知らせします。

<株式運用における ESG 投資の主な取組>

	2010年度	2011年度	2017年度	2018年度	2019年度
ESG インテグレーション	国内株式ESGファンドのインハウス運用				
			リサーチへのESG組込		
			ESG対話		①外国株式ESGファンドのインハウス運用
ESG テーマ型 投資			未上場株式インパクト投資		
					②国内上場株式インパクト投資

#### ①外国株式における ESG ファンドのインハウス運用の開始

- ・アラベスク・エス・レイ(以下「アラベスク S-Ray®」)が算出する ESG スコア(※)を使用して、ポートフォリオを構築。
  - ・アラベスク S-Ray が算出する ESG スコアを日次でモニタリングし、投資銘柄の入れ替えを検討、実施。
- ※世界の主要上場企業 7000 社超の ESG 関連データを日次で収集し、AI を用いて ESG スコアを算出。

#### ②国内上場株式におけるインパクト投資の開始

- ・当社内の株式アナリストが運用収益の獲得と社会的インパクト(社会の構造変化等)の創出の両立を期待できる国内上場企業を選定。
- ・インパクト投資を行った企業については、財務・業績面でのモニタリングに加え、社会的インパクト創出の状況について継続的にモニタリングを実施。進捗が期待を下回る場合には、投資先企業との対話を通じて改善を促す。

当社は、中長期的な収益力向上を図るとともに、責任ある機関投資家として持続可能な社会の形成に寄与すべく、ESG インテグレーションの高度化やインパクト投資の拡充等、ESG 投資に積極的に取り組んでいきます。